

オオヤマレンゲの花を見よう！



オオヤマレンゲの花

花被片は全部同じような形で白い。最も外側が外花被(がく片)で内側が内花被(花弁)。このようにがく片と花弁の形が同じなのは両者が分離していないためで、この種類が初期の花の特徴を持っているからだと考えられている。これはモクレン類共通の特徴である。

中央下部にある赤いものが雄しべ群。その上にあるのが雌しべ群である。この雄しべと雌しべの形は、配置もこの花が原始的な形であることを示している。



果実

いくつもの雌しべが集まっている集合果。雌しべの一つずつは、葉が変化したものであることが分かる。



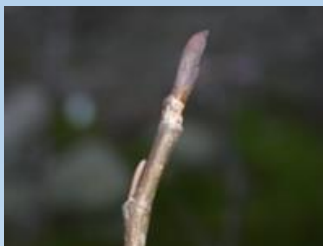
種子散布する果実

熟した果実は背面が割れて、中から種子が出てくる。割れた果実の一つずつが、1枚の葉からできている。



芽生えと若木

一番下の1対が子葉。挟卵形で先端が尖る。本葉は互生で広卵形である。



冬芽

越冬する芽は外側が保護葉に覆われる。保護葉は芽生えの時に、中の芽が大きくなると、割れて脱落する。